

東山動物園要覽

特 256

12

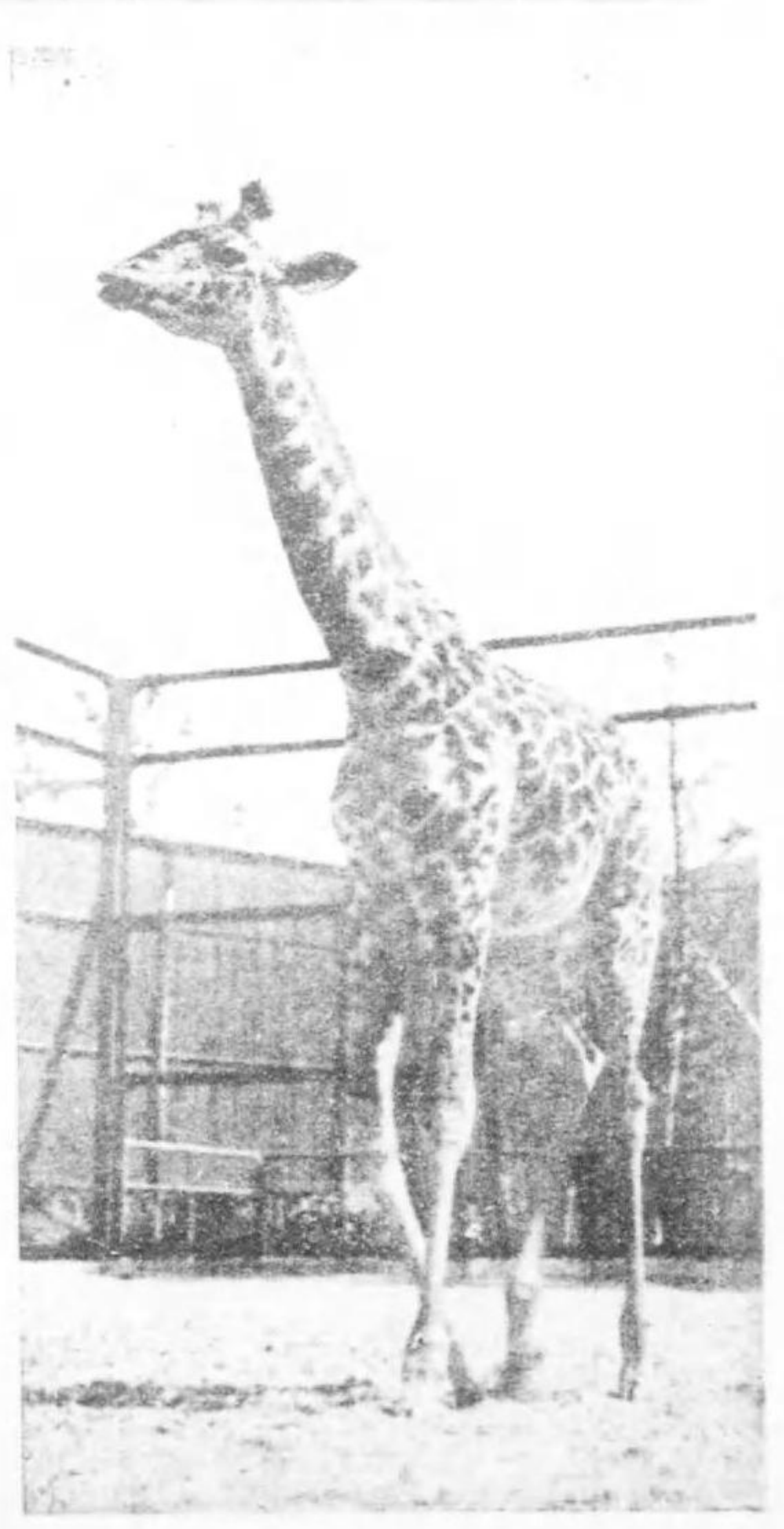


始



特

12



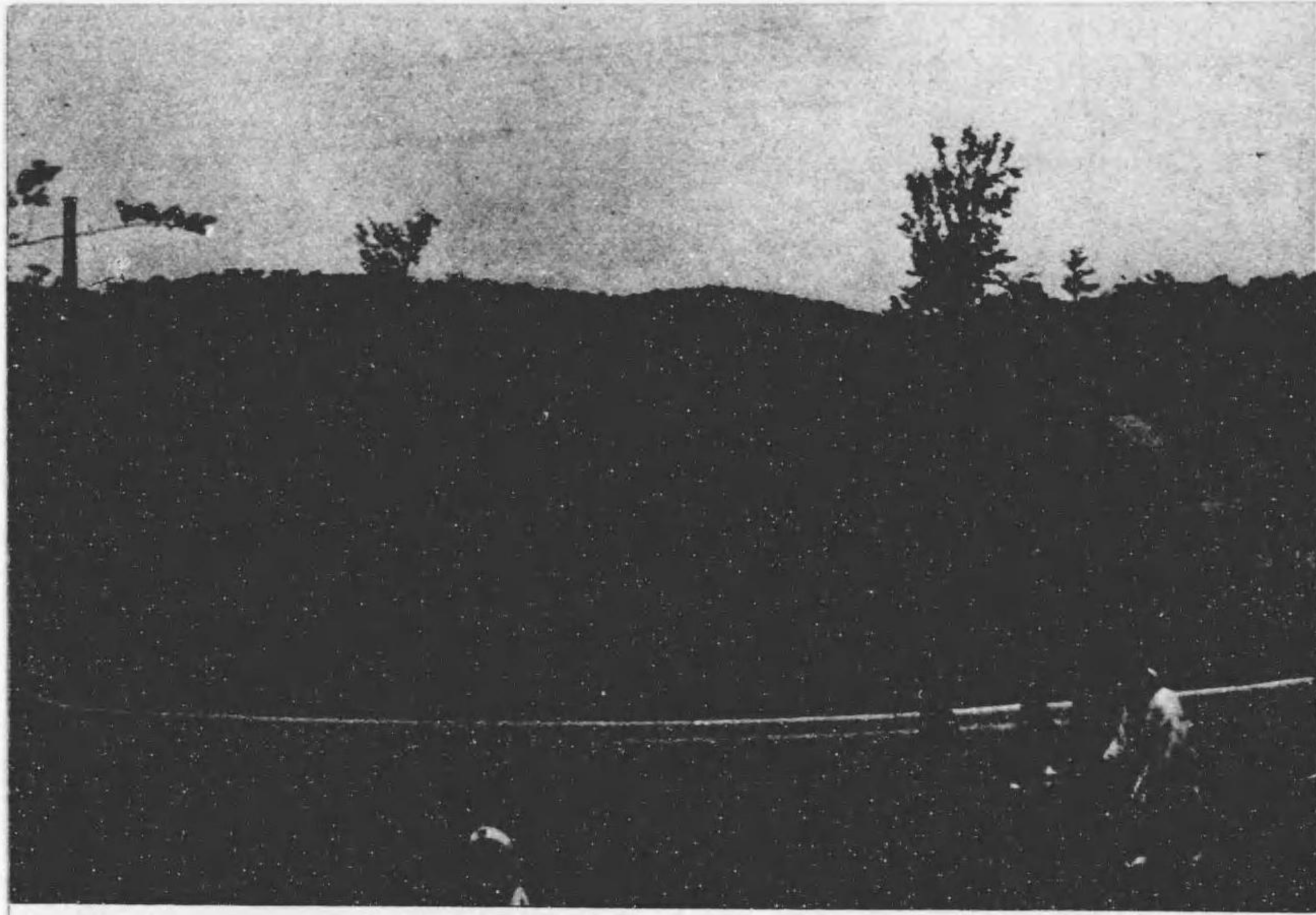
市屋古名

特256
12

目次

一、創設の概要	一
二、光榮錄	二
三、園誌	七
四、設備	一七
五、收容動物一覽	二六
六、動物標本室	二七
七、觀覽人員及觀覽料	二八
八、經費	二九
九、特別參觀者芳名錄	二九
一〇、開園及閉園時刻	三九

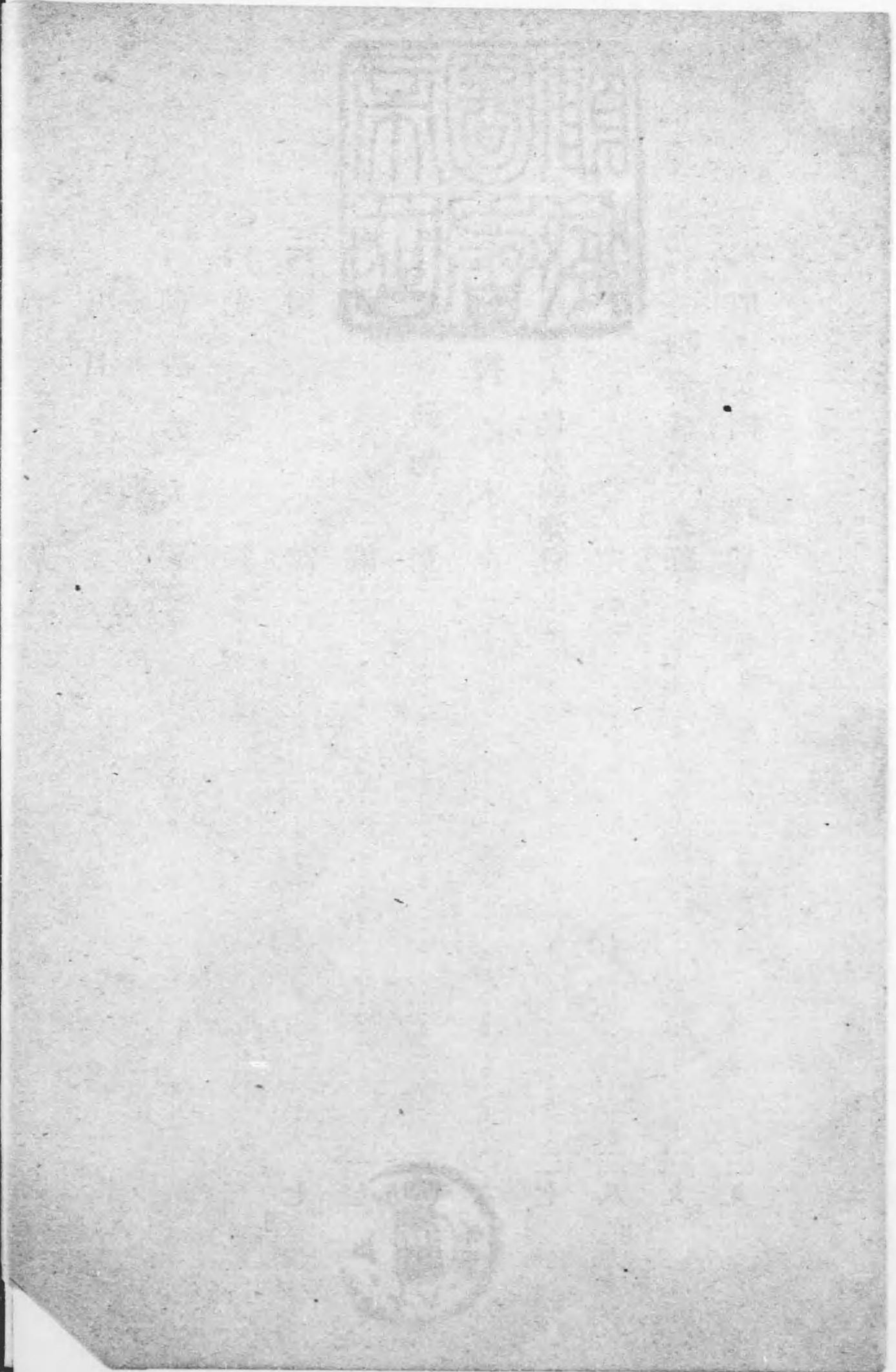




動物園正門

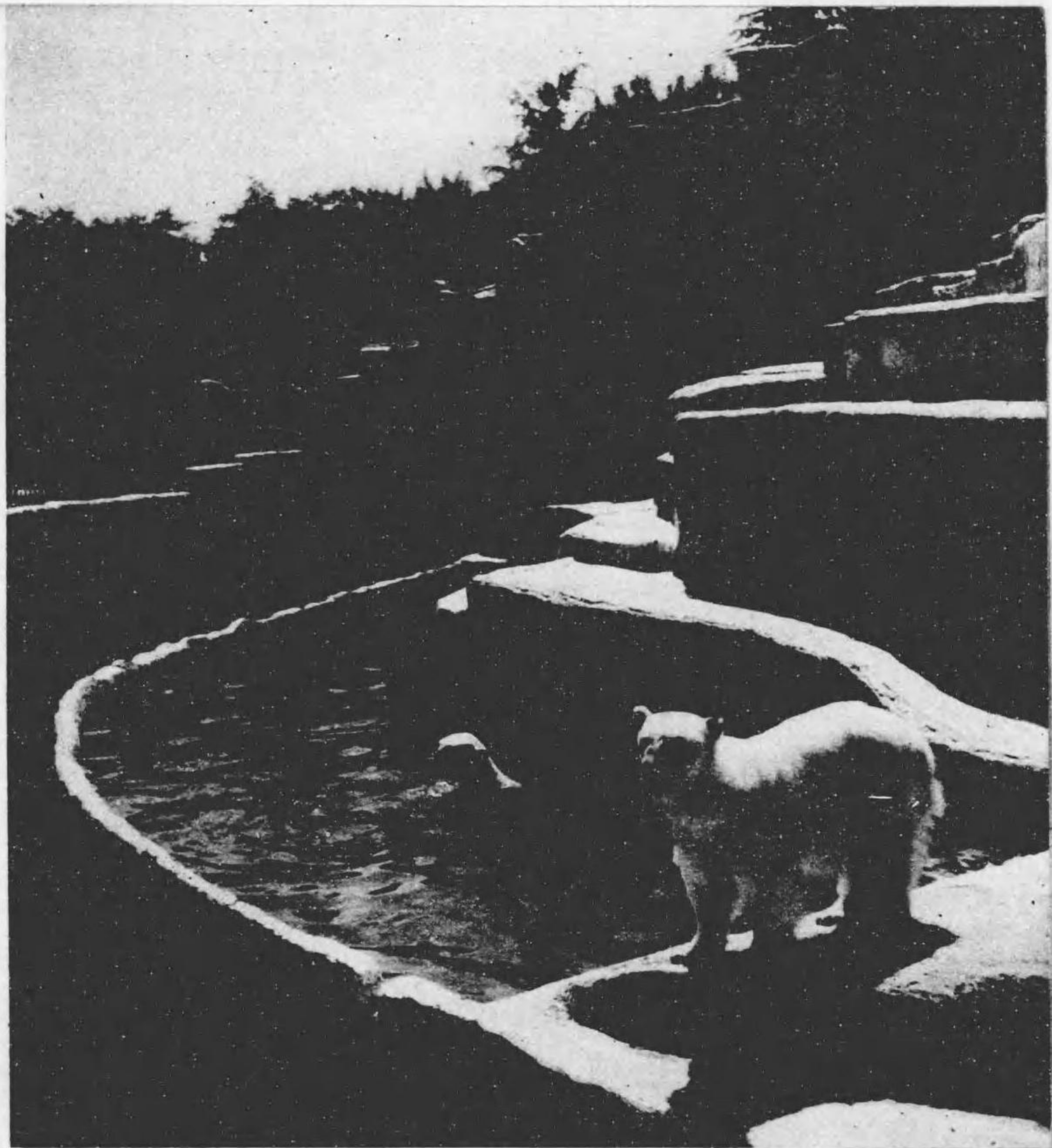


動物園建設前の敷地風景である。この素朴なる山間の田園が、僅か一年の後には輪奐の美を誇る近代的動物園と化して、一箇年二百萬人に近い観客を吞吐しつゝある。



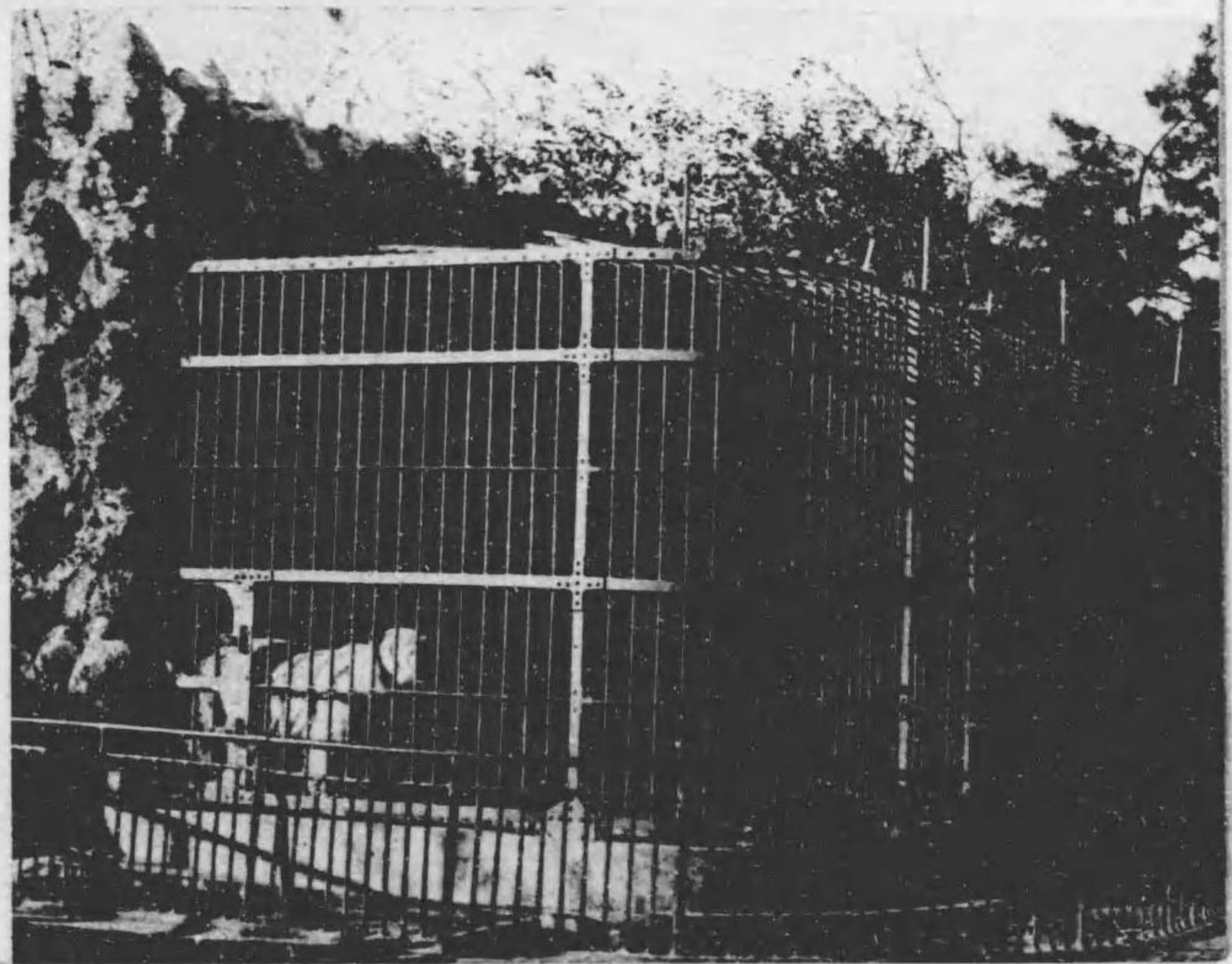


← 獅子放飼場

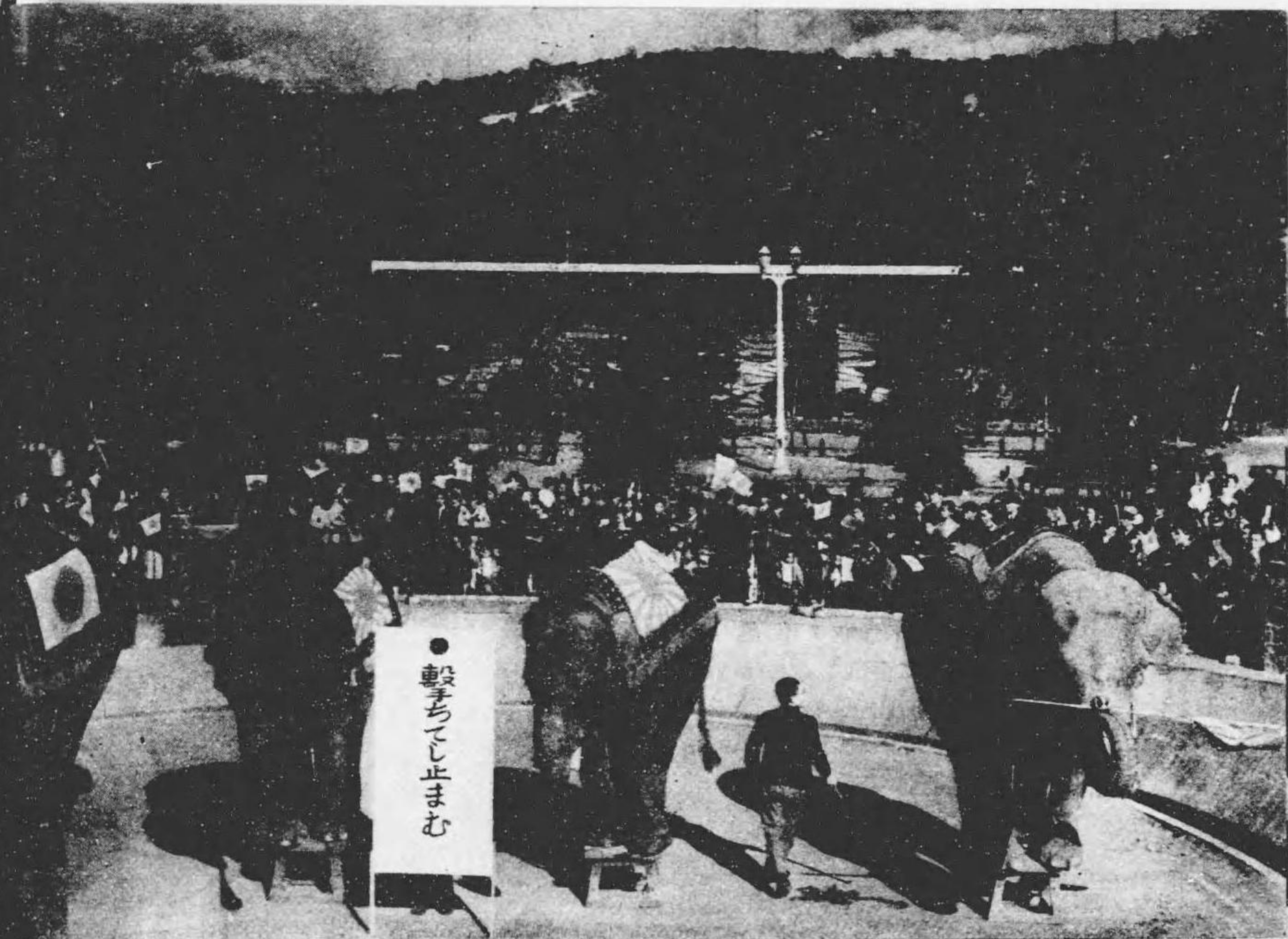


動物園の今昔

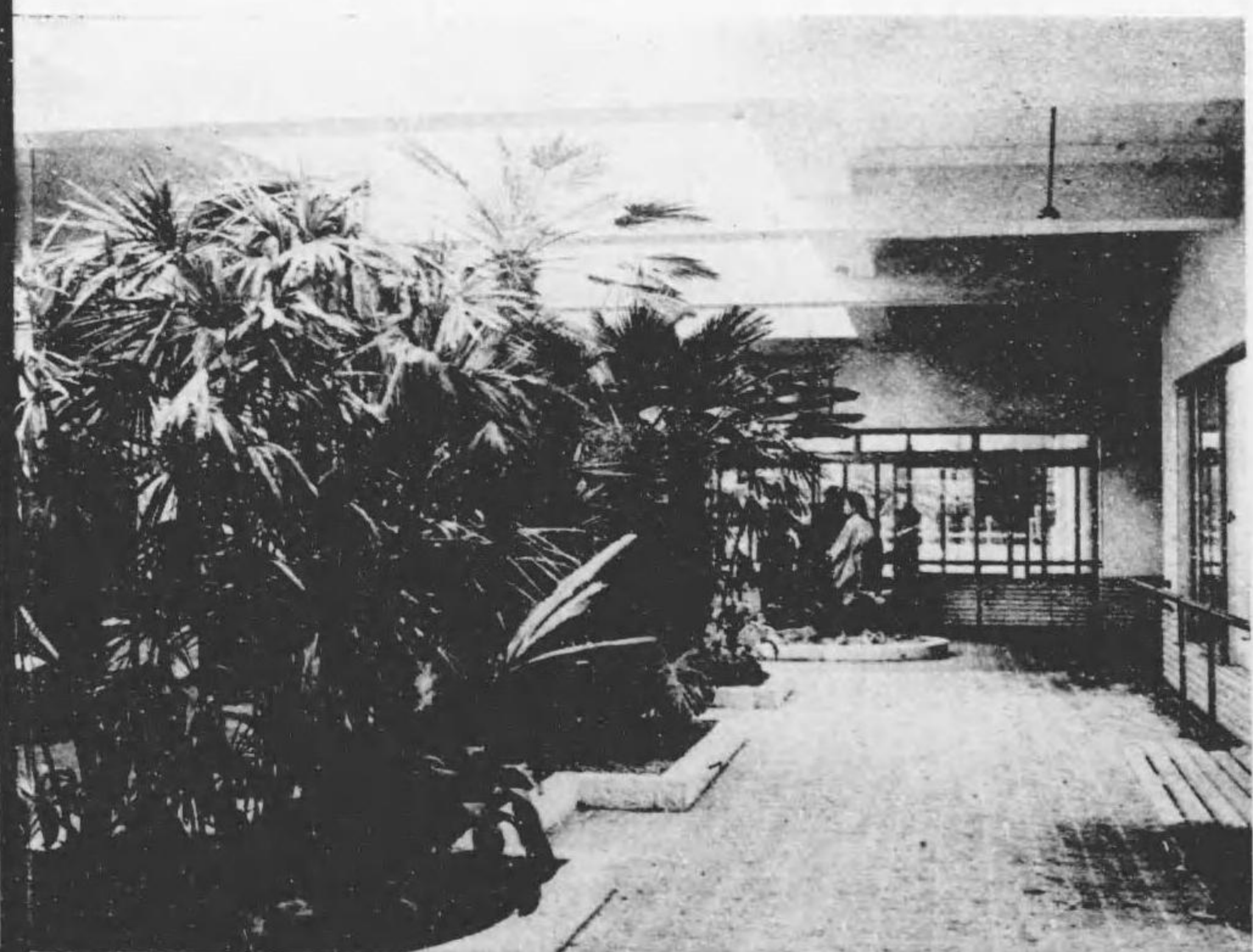
鶴舞公園時代の動物園は敷地も狭く設備も不完全であつた。これは北極熊收容場の比較で、以前は鐵檻中に入つてゐたのが、現在は雄大なる氷山を背景とした北極景觀の中に收まつて原産地の氣分を出してゐる。



→ 猿ヶ島



象の演藝



爬虫類河馬館内部

一、創設の大要

名古屋市動物園は、大正七年四月、鶴舞公園内に創設されたのに端を發し、爾來年を閱する毎に内容は充實し觀覽者の數も亦逐年増加の趨勢にあつたが、何分にも敷地が狹隘であるばかりでなく、設備も亦舊式小規模で躍進途上にある大名古屋市の文化的施設としては、缺くる所が甚だ多かつた。之が爲に動物園の擴張は、年來の懸案であつたが廣大な用地と多額の經費を必要とする關係上其の實現は甚だ困難視せられてゐた。然るに昭和十年に至り當時の市長大岩勇夫氏は、最も熱心に之が實現に向つて努力せられ、恰も此の時篤志者の寄附に依つて新設された東山公園の一廓に、移轉擴張するを最も時宜に適してゐるものとして、銳意之が計畫を進められた。併して用地に或は財源にあらゆる困難を克服して遂に同年十一月、工事費五十萬圓、二ヶ年繼續事業として動物園の移轉擴張を市會に提案するの運びとなつた。かくて市會に於ては之を委員附託として熱心に調査検討された結果、遂に同月三十日滿場一致を以て可決されるに至つた。茲に於て市當局は直ちに新動物園の設計に着手し、越えて十一年三月に至り總ての設計を完了し之を請負入札に附した處、市内の建築請負業北川幸吉氏に決定を見た。此の時同氏は篤志を以て金壹萬圓の寄附を申出られたるに依つて、市會は之を建設費中に追加する事を承認した。斯くして七月三日の佳日をとして、新動物園敷地に於て嚴かな地鎮祭を執行し、爾來晝夜兼期の工事を續けて只管之が竣工を急いだ。幸ひ工事は極めて順調快速に進捗し、昭和十二年三月汎大太平洋平和博覽會開催期日と略歩調を併せ之に後れる事僅かに旬日の同月廿四日に至つて華々しく開園され名も名古屋市東山動物園と改め、東洋一の偉容を以て中京文化の第一線に大きく浮び上つた。

斯くて一度開園となるや観覧者は豫想以外に殺到し、博覽會會期中である五月末日迄の六十九日間に、有料人員のみでも八十九萬三千二百餘人を數へ之に無料観覧人員を加ふれば、優に百萬人を突破するの盛況を呈するに至つた。博覽會終了後に於て観覧者は多少減少の傾向はあつたが、それでも鶴舞公園の舊動物園時代に比較すれば尙二倍以上の観覧人員を持續し之の収入は動物園の維持費を賄つて餘りあるものがあり、其の剩餘は大部分追加豫算を以て動物の新規購入並に施設の改善等に充て内容を逐年充實しつゝ今日に至つた。今や東山動物園は名古屋市の一名所となり、銃後に於ける文化の昂揚、科學心の涵養等に寄與するは勿論、市民の保健、慰安等の厚生的機能をも發揮し、特に傷痍軍人、白衣の勇士に親まるゝ等其の使命は益々重大性を加ふるに至つた。

二、光 榮 錄

昭和十二年四月五日

賀陽宮恒憲王殿下 同妃殿下御成

賀陽宮恒憲王殿下、同妃殿下には、章憲王、文憲王、宗憲王の三若宮殿下御同伴にて、本園に成らせられ、午前九時十五分正門御着、藤岡助役及び北王園長御案内申し上ぐる中を、園内各所を御興深く御覽遊ばされ、同九時五十分御機嫌御麗しく御歸還あらせられた。

昭和十二年五月四日

閑院宮春仁王殿下 同妃殿下 御成

閑院宮春仁王殿下、同妃殿下には御揃にて本園に御成り遊ばされ、午後三時十分正門に御着、大岩市長及び北王園長御案内申し上ぐる中を、園内隈なく御觀覽の上、同五時十分御機嫌御麗しく御歸還あらせられた。

昭和十三年四月二十三日

朝香宮鳩彦王殿下 御成

朝香宮鳩彦王殿下、には陸軍中將の御軍裝にて、本園に成らせられ、午後四時三十分正門に御着、藤岡助役及び北王園長の御先導にて、園内を御觀覽あらせられ御興深く御一巡の後、同五時三十分御歸還あらせられた。

昭和十四年二月十五日

三笠宮崇仁親王殿下 御成

三笠宮崇仁親王殿下 には隨員一行を従へさせられ、午前八時四十五分、正門に御着、藤岡助役及び北王園長御出迎へ申し上ぐる中を御入園、北王園長の御案内にて園内を御觀覽遊ばされ、同九時三十分御歸還あらせられた。

昭和十五年四月十五日

閑院宮載仁親王殿下 御成

日本赤十字社愛知支部御親授式に台臨の爲、御來名中の閑院宮載仁親王殿下 には本日動物園御覽の御思召を以て、午後三時十分御附武官及び兒玉愛知縣知事以下を隨へさせられ正門に御着、正門前には縣市長及び北王園長御出迎へ申上ぐる中を事務所内貴賓室に入らせられ御小憩遊ばされた。此の間市長並に園長に拜謁を賜り、縣市長より園の概況につき言上した。次いで三時三十分事務所御發、園長の御先導、市長の御案内にて園内を御觀覽遊ばされた。殿下には御機嫌御癒しく種々の御下問あり、市長及び園長より御答へ申上ぐる中を御興深く御一巡あらせられ午後四時三十分御歸還あらせられた。後、市長及び園長は御宿舍名古屋觀光ホテルに伺候し御禮言上の記帳をなして退出した。

昭和十五年十一月十九日

梨本宮守正王殿下 御成

大日本飛行協會航空功勞者御親授式に台臨の爲、御西下の梨本宮守正王殿下 には本日午後二時十七分名古屋驛御着車、直ちに熱田神宮に御參拜の上、同三時十八分大松澤事務官、矢ヶ崎御附武官始め多數の隨員を從へさせられ本園に御成り遊ばされた。

正門には縣市長、北王園長御出迎へ申上ぐる中を事務所内、貴賓室に御小憩遊ばされた。此の間に市長及び園長に拜謁を賜り、縣市長より園の概況につき言上した。後殿下には園長の御先導、市長の御案内にて園内を御觀覽遊ばされ御退出した。

御下賜動物

大正十四年九月十四日

畏くも、攝政宮殿下 におかせられては、名古屋市動物園に樺太産羆一頭を御下賜あらせらるの御沙汰があつた。よつて北王園長は其の日赤坂御所に伺候の上拜受して退出、十六日午前六時名古屋驛に到着、直ちに動物園に搬入した。此の羆は昭和二年十一月十三日、不幸にも急性腸加答兒に罹り夭折したので、剝製標本として大切に保存されてゐる。

昭和二年十一月十九日

聖上陛下 陸軍特別大演習御統監の爲、愛知縣下に行幸あらせられ、大本營を名古屋偕行社に置かせ給ふに際して特に御思召を以て印度支那産猿二頭を左の通り御下賜あらせられた。

昭和二年十一月十九日

宮内大臣 一木喜徳郎

名古屋市長 大岩勇夫殿

通牒

今般愛知縣下 行幸ニ付御思召ヲ以テ其市動物園へ左ノ通り下賜相成候

記

一 猿 印度支那ヲオス産 貳 疋

此の猿は容姿端麗、性質溫和、今日に至るも頗る元氣である。蓋し此の種の猿としては、内地に於ける異例の長壽を保つてゐるものとして珍らしい。園員一同は此の光榮に感激して、只管本猿の健康を祈念しながら之が飼育に専心してゐる次第である。

三、園誌 (昭和七年以降)

昭和七年

一月一日 本年の干支に因み『お猿の展覧會』を開催

一月十五日 『お猿の展覧會』本日をもて閉會

二月廿四日 名古屋市長大岩勇夫氏來園

二月廿六日 本園より猛獸の鳴聲を名古屋中央放送局より

全國中繼にて放送

四月八日 獅子出產

四月十日 動物の慰靈祭を舉行

花車、稚兒の行列美々しく北門より祭場に到着、讀經、北王園長の焼香、一般參觀者の自由參拜あつて終了。特に學者犬『トミー君』の實演を行つた。

五月廿三日 第一回動物祭を舉行。

十五日午後一時半、在園動物の生命祝福と物故動物の追弔を兼ねた動物祭式典を舉行、北王園長の挨拶、大岩市長、青井市會議長、高松協賛會長、淺野副會長等の玉串奉奠、高松

會長の挨拶があつて終了。

因みに十日間の會期中、童謡劇、兎小鳥の展覧會、パノラマ館、繪畫館、鳩ボツホ郵便局、ハーゲンベツク動物園模型、其他臨時賣店を特設し盛會であつた。

五月十五日

動物の假裝行列、童謡會を開催し空前の盛況を呈した。觀覽者は開園以來の記録を作つた。有料觀覽者二萬三百七十人、其の料金一千六百七十七圓七十七錢

五月十六日

名古屋中央放送局より動物祭の實況を本園より全國中繼にて放送

五月十九日

本園主催、懸賞募集中の童謡、圖畫、作文の入選者を發表。

五月廿二日

畜犬並に梵天十姉妹の展覧會を開催。又懸賞童謡當選歌の演奏を行つた。

五月廿三日

本日を以て動物祭を終了。本期間中の有料觀覽者六萬一千四百四十二人、其の料金四千六十四圓十五錢

八月十四日

寒帯動物慰安納涼デーを開催、白熊内外籠舎アシカ舎、に二千貫の氷の山を築き彼等の郷里に髣髴たらしめ苦熱に喘へぐ寒帯動物を慰安し併せて観覧者にも十分納涼氣分を満喫させた。

自八月廿二日
至八月廿八日

毎夜九時半迄、公園祭協賛の意味を以て夜間開園。

九月一日

豹出産。

十月十六日

候爵徳川義親閣下來園。

十一月五日

黒豹一頭到着。

昭和八年

一月一日

西の正月に因み『鶏の展覽會』を開催。名古屋市農會並に名古屋市養鶏聯合組合の後援を得て名古屋種、三河種、二百羽鶏卵八百個を出陳、其の他参考用として珍鶏種十數種及び鶏に關する玩具、浮世繪等をも陳列した。

一月九日

『鶏の展覽會』褒賞授與式を聞天閣に於て舉行。

審査報告を桑島技師、大岩市長の祝辭(代讀)遠藤知事の祝辭(代讀)等があり盛會裡に終了。

五月七日

一、動物使節を附近小學校に派遣。
名古屋中央放送局より動物祭の實況を本園より全國中繼にて放送。

五月九日

本日の入園者は開園以來の最高記録を作つた有料観覧者二萬九千七百十五人、料金二千三百四十四圓七十四錢。
動物使節として猩々を吹上、御器所兩校へ派遣。

五月十四日

珍藝オリンピック大會並に其の審査を取り行つた。

五月二十日

猿廻し、雲雀會、目白啼合會等の餘興軍用動物慰靈祭を午後二時半より舉行。

五月廿一日

動物祭は盛況裡に本日を以て終了。

五月廿九日

獨逸ローレンツ、ハーゲンベツク氏より大鶴二羽、寄贈

七月廿二日

本日より八月十日迄、動物園の夜間開園をなし、閉園時間を午後十時半迄延長。

七月廿六日

愛知縣知事遠藤柳作氏より猪仔二頭寄附。

八月十七日

縞馬を一頭購入。

八月廿七日

黒狸々牡一頭購入。

九月四日

新着の縞馬及黒狸々の名前を一般より募集。

一月十二日

『鶏の展覽會』は本日を以て終了。

三月十四日

虎の牡一頭購入

四月十日

獨逸ハーゲンベツク動物園よりローレンツハーゲンベツク氏來園。動物の飼育其の他に關し意見の交換をした。

五月六日

第二回動物祭を本日より廿一日迄、本園に於て開催、同期間中に於て次の行事を實施した
一、動物祭典の舉行。
一、童謡、童話劇の開催。
一、愛玩動物展覽會の開催。
一、動物祭宣傳ポスター、パンフレット等の印刷物刊行。

一、動物園の土産物付觀覽券の發行並に其の前賣。
一、模擬店の設置

一、園内の動物及動物舎屋の裝飾。
一、加盟商店動物祭協賛行列。並に賣出し。

一、動物に關する圖畫、手工、手藝品、童謡の懸賞募集。
一、動物珍藝オリンピック大會開催。

一、寫眞競技會の開催。

九月十日

名古屋中央放送局より黒狸々の放送を行つた

九月十六日

縞馬、黒狸々の名前募集本日を以てメ切、應募總數千九百、審査の結果當選のもの

十月一日

世界動物探檢博覽會を、市廳舎竣工祝賀協賛會の後援の下に廿日迄開催。同期間中主なる行事。

一、地球セット設置

一、南極、北極探檢船

一、世界動物園めぐり

一、動物原産地パノラマ

一、縞馬生態大パノラマ

一、動物生態繪畫

一、漫畫式動物探檢造り物

一、ラヂオ塔設置

一、爬蟲類生態室設置

一、陳列場の設置

一、動物寫眞、模型動物園等

世界動物探檢博覽會、本日を以て終了。

十月廿日

世界動物探檢博覽會、本日を以て終了。

昭和九年

- 一月一日 戌年に因む『犬』の出陳會を七日迄開催。
- 五月十二日 第三回動物祭を本日より六月三日迄開催。
- 五月十三日 名古屋中央放送局より午前九時半、動物祭實況を全國中繼にて放送。
- 五月十九日 動物祭典を舉行。協賛會のお伽行列を行つて盛會を極めた。
- 五月三十日 朝鮮京城動物園より河馬到着。
- 六月三日 第三回動物祭は本日を以て終了。
- 九月二日 愛知縣知事篠原英太郎氏來園。
- 十月一日 名古屋祭の協賛として次の行事を行つた。
河馬命名式 重吉
傳書鳩競翔會。軍用犬實演。

昭和十年

- 一月一日 動物園より『鶴の一聲』を名古屋中央放送局より全國中繼にて放送
本日より十五日迄『鶴と亥』に因む趣味の展覽會を開催
大阪毎日新聞社トキーニユース映畫に當動

二會場となり動物行列を舉行。

昭和十一年

- 一月一日 干支『子』に因む鼠の展覽會を本日より十五日迄開催。繪畫、玩具の陳列。
- 四月十九日 小鳥の鳴聲を名古屋中央放送局より全國へ中繼放送を行つた。
- 五月一日 第五回動物祭を本日より廿四日迄開催。同期間に於ての主な行事
 - 一、動物祭式典の舉行。
 - 一、動物に關する童話及び童話劇を開催
 - 一、動物形造り物を設置
 - 一、動物舎屋、其他園内各所の裝飾
 - 一、入園者に動物寫眞集を贈呈
 - 一、動物に關する手藝品、圖畫、並に懸賞寫眞の募集及び展覽會を開催
 - 一、全國玩具展覽會の開催
 - 一、臨時賣店の設置
 - 一、動物祭宣傳のポスター、パンフレット等の印刷
 - 一、ラヂオの現地中繼による放送

五月四日 物園風景を撮影
第四回動物祭を本日より廿六日迄開催、主な催物

- 一、動物祭式典
- 一、子供汽車
- 一、動物玩具博覽會
- 一、兒童の圖書手藝展覽會
- 一、寫眞展覽會
- 五月五日 動物藝能の會を開催
市公會堂に於て動物演藝會の實況を放送。
- 五月十一日 臺灣産の珍奇な蛇類を陳列
- 五月廿六日 第四回動物祭、本日を以て終了。
- 十月二十日 名古屋愛友會並に全國金鑄聯合會後援の下に全國金魚展覽品評會を開催。
- 十一月一日 本日より三日間、熱田神宮遷座祭を奉祝する爲、動物福引デー並に奉祝傳書鳩競翔會を舉行。
- 十月三十日 本日名古屋市市會に於て動物園移轉擴張の件を可決。
- 十二月一日 大阪毎日新聞社主催の下に奉祝親王殿下御誕生小國民大會を開催。午前十一時、當園は第

一、團體前賣券の發賣

- 一、公園ガード内より動物園行子供汽車運轉
- 一、動物代表使節ペンギン鳥を市役所へ派遣
市長ヘメツセージ捧呈
- 五月十日 名古屋日本犬協會主催、全國日本犬共進會を開催。
- 五月十三日 名古屋市聯合少年團主催、動物キャンプ會を開催。
- 五月十七日 日本セパード犬協會名古屋支部主催、セパード犬鑑賞會を開催。名古屋市佛教健兒團本派本願寺幼稚園名古屋佛教日曜學校共同主催の動物追弔會を執行
- 五月廿日 有志雲雀會主催、雲雀啼合せ會を開催。
- 五月廿四日 第五回動物祭本日を以て終了。
- 七月三日 東山公園に於て新動物園の地鎮祭を舉行。
- 七月五日 ハワイ、ワイキキ鳥類園主事ウキス氏來園。
- 七月廿七日 東京市上野公園恩賜動物園より象調教師シヤム人、エムウイドルノツバクーン氏を招聘、八月一日迄滞在。
- 九月二日 縞馬、エランド牝各一頭宛到着
- 九月四日 駒籠獸四頭樺太廳より寄贈

九月廿日

濠洲タロンガ動物園主事ブラウン氏來園。

九月廿三日

名古屋愛友會主催、全國金魚品評展覽會を開催。

十月廿二日

本園防護分團組織の下に防空演習を行ひ特に猛獸逸走想定の下に全員演習に参加

昭和十二年

一月一日

五年に因み『牛の展覽會』を十五日迄開催。新年記念スタンプを觀覽者の需に應じて押捺した。

一月廿四日

東山動物園の工事の進捗に伴ひ順次動物の移轉計畫を樹て本日其の第一回として馬、熊始め十四頭を恙なく新園に收容した。

二月十二日

鶴舞公園内の動物園は愈々本日を以て閉園された。(名古屋市告示第二十八號)

三月十八日

動物園觀覽料條例次の通り改正(名古屋市告示第二十八號)

普通觀覽料

大人 一人ニ付 十五錢
小人 一人ニ付 五錢

團體觀覽料

大人 三十人以上ノ團體一人ニ付 十錢
小人 四十人以上ノ團體一人ニ付 八錢

一一

三月廿三日

動物移轉の日程に従ひ猛獸其の他の鳥獸の移送をなす事本日を以て二十六回に達した。其の間園員一同の苦心には慘憺たるものがあつた。幸ひ逸出或は負傷等の失態は一度もなく唯暖房の關係上、狸々、黒狸々等の熱帶動物を一部殘留せしめたのみで大部分の動物は新園に收容され愈々明日の開園を待つのみとなつた。次に動物移送の日程を掲げ後日への記録とした。

一月廿四日 マライ熊其他中型獸十四頭

一月廿七日 黒 豹一頭
危險動物により特別堅固な檻を用ひた。

二月三日 豹牝牡二頭
移送檻に誘導するの苦心した。

二月九日 虎牝牡二頭 同

二月十日 眞孔雀二羽

二月十一日 白孔雀其他鷄類十四羽

二月十六日 青 鸞二羽

二月十八日 眞孔雀二羽

二月十九日 白熊牡一頭
牡は容易に檻に入らず遂に延期した

二月廿一日

白熊牝一頭 本日迄かゝつて漸く檻に入れる

本日より象移轉用大檻(高さ三米、幅二米半、長さ五米)の製作の爲大工作業に着手した。

二月廿七日

野牛一頭 大型猛獸で且新園の山の手にある爲引上ぐるに苦勞した

二月廿八日

マント狒々其他猿四頭

三月一日

虎 七頭

三月四日

駱駝三頭

三月九日

鶴其他水禽類全部

三月十二日

朝鮮馬、狐、鶯、喰火鳥等

三月十三日

象

早朝より檻に入れやうと再三試みたれ共容易に入らず午後一時に漸く檻に移すことが出来たトラクタに依つて牽引午後八時半東山公園入口に着いた。然し道路に車輪が嵌入して動かす事が出来ず本夜は此の儘にて露宿させた。

三月十四日

本日も象作業續行。深夜に至

三月廿四日

新園の名稱を名古屋市東山動物園と決定(名古屋市達第八號)

一三

つて漸く無事に新家館に收容

獅子二頭。大鷲他四羽。

三月十五日 獅子二頭。カンガル二頭。

三月十六日 馬鹿二頭。赤毛猿全部。

三月十七日 園内樹木、事務所備品等

三月十八日 縞馬一頭。エランド二頭

三月十九日 山羊、綿羊其他多數

三月廿日 ラマ二頭、白鳥其他鳥獸多數

三月廿一日 日本猿十九頭。小鳥全部、其の他多數の小獸。

三月廿二日 河馬一頭。ベリカン二羽、其の他

三月廿三日 錦蛇二匹、大蜥蜴四匹、海驢

五頭、猪、其の他中型獸多數

四月二日 狸々、黒狸々 暖房の關係上本日迄殘留した

四月六日 籠一頭、日本熊三頭、紅鶴

其の他 收容場未完成の爲本日迄延期

三月三十日

本日より開園、待ち構へた観覧者は一時に殺到した。
獨逸ハーゲンベック動物園より輸入の動物到着し内容頗に充實した。
主なる動物

白熊牝 一頭。 河馬牝 一頭。
縞馬 一頭。 角馬 二頭。
ペンギン鳥六羽。 猿類 八頭。

四月十八日

此の日の観覧者は、開設以來の最高記録を示した。

有料観覧者四萬四千二十八人
其の料金五千四百二十七圓

五月廿七日

今明兩日、本市の主催を以て六大都市動物園主任者協議會を開催。

六月十九日

本日午後一時より園内舞臺に於て、竣工祝賀式を舉行した。即招待の諸名士及び同伴家族一千餘名參列の下に、天野川原神社々司祭主となり厳かな式典を舉行、祭主の祝詞奏上、玉串奉奠後大岩市長の式辭、田中愛知縣知事今堀市會議長、青木商工會議所會頭の祝辭があつて同二時半式を閉じた。後園遊會に移り

各自模擬店に入り歡を盡した。特に餘興として西川里喜代社中及び稻熊舞踊研究所生の舞踊を見、盛大裡に祝典を終了した。
八月六日 アフリカより輸入の麒麟牝牝二頭到着。
十月十日 本日より秋季間毎日曜日(晴天なれば)舞臺に於て、音樂會及び童謡會等の餘興を開催。
十一月廿六日 防空演習を舉行。
十二月廿四日 木下サーカスより購入の象四頭は、大擧して到着。折柄の冷雨を衝いて賑々しく新築象舎に收容。

昭和十三年

一月一日 寅年に因み『虎に關する展覽會』を本日より十五日迄開催。

三月廿五日 新年記念スタンプを観覧者の需に應じて押捺新愛知子供デーを開催。
錦蛇一頭到着。

四月十日

本日より春季間毎日曜日(晴天なれば)園内の舞臺に於て音樂會、童謡會を開催。

四月十五日

獅子一頭到着。
駝鳥二羽到着。

五月五日

九月廿五日

名古屋新聞社主催第二回青少年少女日參團慰安會を開催。

九月廿六日

防空演習を施行。

九月廿九日

午前七時三十分より箕浦工兵中佐指導の下に附近の防護團により防空壕を園内に構築し一般の觀覽に供して防空思想を鼓吹した。

十月一日

動物園攝影寫眞を懸賞募集。

十月十六日

秋季間(毎日曜日)行ふ餘興大會、第一回を開催した。

十月廿五日

懸賞募集した園内風景並に動物生態寫眞の審査會を午後一時より市公會堂に於て開催し本園より北玉園長外一名臨席

十一月五日

動物祭を園内舞臺に於て神式を以て舉行。

十一月廿日

名古屋生物學會講演會を園内獸醫室に於て開催。

十二月廿四日

新設の『猿ヶ島』に日本猿二十六頭を放養した。

昭和十四年

一月一日 卯年に因む『新年記念スタンプ』を観覧者の需に應じて押捺。

本日より十五日迄『兎と遊ぶ會』を開催。

一月廿三日

ペンギン鳥二羽到着。

一月廿八日

象『花子』午後五時半斃死。

三月十日

名古屋新聞社主催、軍馬、軍用犬、軍用鳩の慰靈祭を午後二時より園内ステージ前にて舉行。

四月九日

観覧者優待の目的を以て、四月、五月の日曜日、祭日、並に一日、十五日には、園内の舞臺に於て餘興を行ふ事とした。本日は第一回として名古屋アコーディオン俱樂部による演奏會を開催。

四月廿七日

本市支那事變名古屋市後援會主催に係る白衣勇士招待會を開催した。勇士〇〇名の來園があつて盛會裡に午後三時半終了した。

五月廿六日

ペンギン鳥二羽到着。

十月一日

本日より八日まで滿洲支那動物展示會を開催
十月一、二日の兩日は市制記念日協賛の意味を以て觀覽料を大人八錢、小人參錢に割引

十月廿一日

本日夜半より防空演習を開始。

十月廿九日

防空演習は本日を以て終了。

十一月十九日

戦死動物及び園内物故動物の慰靈祭を佛式

によつて執行。

昭和十五年

一月一日 紀元二千六百年の奉祝記念スタンプを観覧者の需に應じ押捺。
三月廿九日 名古屋市銃後奉公會にて出征軍人家族小學兒童を動物園に招待、参加兒童三千九百三十八名。

四月六日 『花祭』『動物祭』『子供の集ひ』を開催。
六月十六日 『動物園を寫す會』を日本カメラ俱樂部協會主催。本園後援にて開催。

七月十二日 マニラ市在アギナルド氏寄附の『緋胸鳩』二十一羽到着。
八月六日 名古屋地區防空演習發令され園員一同各々待機の準備をした。

九月十四日 泰國ロプリア動物園より、手長猿三頭の寄附を受け本日到着、一般の觀覽に供した。

六月二十日 教育勅語漢發五十周年記念の嘉辰に際し、北王園長は社會教育功勞者として橋田文部大臣より表彰さる。
十一月十日 紀元二千六百年記念奉祝日につき午前八時よ

一六

り奉祝式を行ひ午前十一時より三回に亘り園内野外劇場に於て奉祝餘興として兒童舞踊會を開催。

十一月十七日 動物慰靈祭を執行。

午後一時より園内舞臺に於て佛式を以て行ひ式後餘興として舞踊を公開し同三時半終了。

昭和十六年

一月一日 恒例により新年記念スタンプを観覧者の需に應じ押捺。

四月二日 上野動物園よりマント狒々牡到着。
四月六日 『花まつり、動物まつり、子供の集ひ』を開催
主催名古屋市佛敎少年聯合會、名古屋市東山動物園。

四月三十日 内木孝二郎氏寄附のホルネオ産大蜥蜴一頭及鱈一頭到着。
七月十八日 河馬の牡出産『重太郎』と命名。

十月十二日 本日より二十二日迄、防空演習を實施した。
十二月一日 愛知縣主催の『國民協力防犯週間』に協賛して、一日及七日の兩日園内舞臺に於て餘興を開催。

昭和十七年

一月一日 本日より三十一日迄毎日、出征軍人遺家族を

四、設 備

敷地、建物面積

敷地 一六六、三二〇平方米
建物 五六棟
五、六六七平方米

工 事 費

本工事費 五一〇、〇〇〇圓
附帶及追加工事費 約八五、〇〇〇圓

本園は輓近動物園事業の進展に順應する最新の設計になり、面積廣大規模の豪壯華麗なることは東洋一と稱せらる。園内には近代式鐵筋コンクリートの獸舎が綠樹の間を點綴して一大美觀をなすのみでなく各獸舎には夫々の動物に應じて其の飼育上からも觀覽の上からも既成動物園の短所を補正せる最新の設備が施されてゐる。尙本園の最も誇りとするは猛獸の

一七

無柵式放飼場であつて之は從來のやうな鐵柵を設けず特殊の装置によつて動物の逸出を防ぎ、觀覽者は安全に併も何等の視野を遮るものなく直接に動物を見ることが出来る。中にも獅子放飼場及び白熊氷山の壯觀は園内の白眉として開園以來好評を博してゐる。今主要な建物を挙げると次の通りである。

○アフリカン・ステツプ

大岩壁を背景としてゐる獅子放飼場には數頭の獅子が放飼せられ、濠を隔て、觀覽客に對して雄大な風景を中心として、其の前下方には縞馬、大羚羊、駝鳥等の東アフリカ草原に棲む鳥獸類を放飼して以てアフリカ動物原産地の綜合的景觀を現出したものである。

○北極パノラマ

白セメントを以て北極の氷山を模し白熊を放飼した。又其の前方には海獸の池があつて、海豹、海驢、おつとせい等を放ち、寒帶動物の生態を示したものである。

○ペンギン島

南極産ペンギン島の氷山

○猿ヶ島

日本猿の群棲状態を示す放飼場

○鷲類放養場

峻嶒な岩壁を背景とする大放飼場に鷲十數羽を放ち、之が羽翼を擴げて大空を飛翔する壯觀を見せんとしたものである。

○爬虫類河馬館

鐵筋コンクリート暖房装置の完備せる大建築で數室に區分せられ、鱷、大蛇、大蜥蜴等のテラリウム房と河馬室とより成つてゐる。いづれも熱帶水邊動物で、各室には椰子、蘭、バナナ等の植物を繁茂せしめてジャングルの氣分を出してゐる。

○高等猿類館

類人猿の黒猩猩、猩々、手長猿等の愛嬌ものの室である。

○其他

象館、キリン館、豹虎館等を始め大小幾多の動物舎には世界各地の珍動物を飼育してゐる。園内には池、橋、山などがあつて頗る風趣に富み、又眺望のよい所には、休憩所を配し尙兒童遊園地、野外劇場の設備もあつて一日の清遊を擅まゝにすることが出來眞に文化の昂揚、科學心の涵養、動物愛護の精神を養ひ、亦保健、慰安等の厚生的機能を兼備した近代的施設である。

五、收容動物一覽

○哺乳類

○靈長類
 赤毛猿 (印度) 蟹喰猿 (マライ半島)
 黒猿 (セレベス島) 猿 (日本)
 獅子尾猿 (印度) 臺灣猿 (臺灣)
 まんと狝々 (アフリカ) 手長猿 (マライ半島)
 もな猿 (アフリカ) みどり猿 (アフリカ)
 ばたす猿 (アフリカ) まんがべー猿 (アフリカ)
 かくま狝々 (アフリカ) 白臉猿 (佛印)
 紅顔猿 (支那) うーりー猿 (南アメリカ)
 狐猿 (マダカスカル島)
 ○翼手類
 大蝙蝠 (南洋)
 ○齧齒類
 家兔 (日本) 臺灣栗鼠 (臺灣)
 朝鮮栗鼠 (朝鮮) 天竺鼠 (南アメリカ)
 豪猪 (印度) 灰色栗鼠 (北アメリカ)
 ばたごにや野兎 (南アメリカ)

○食肉類

赤熊 (シベリヤ) 獾 (日本)
 洗熊 (北アメリカ) 狐 (日本)
 熊 (日本) 黒豹 (マライ半島)
 高麗熊 (朝鮮) 獅子 (アフリカ)
 縞鬣 (印度) 臺灣麝香猫 (臺灣)
 黄鼬 (日本) 鼬 (北海道)
 虎 (マライ半島) 白鼻心 (臺灣)
 鼻熊 (メキシコ) 豹 (マライ半島)
 北極熊 (北極地方) 馬來熊 (マライ半島)
 蒙古熊 (蒙古) 海豹 (北太平洋)
 海狗 (日本) 臘腸 (海豹島)
 水獺 (滿洲) 黄鼬 (印度)
 熊 (マライ半島) おせろつと (中央アメリカ)
 灰色狐 (北アメリカ) 朝鮮狼 (朝鮮)
 白義貂 (朝鮮)
 ○偶蹄類
 あめりか野牛 (北アメリカ) 野猪 (日本)

○鳥類

袋狐 (オーストラリア)
 ○燕雀類
 赤腹 (日本) 青背 (日本)
 赤腹 (沖繩) 花背 (日本)
 赤背 (日本) 大磯 (日本)
 交喙 (日本) 大磯 (日本)
 柄長 (日本) 大磯 (日本)
 大畫眉 (支那) 和鶯 (朝鮮)
 掛子 (日本) 高麗鶯 (朝鮮)
 九官鳥 (支那) 金雀 (カナリ島)
 錦官鳥 (オーストラリア) 金野路子 (南アメリカ)
 錦花 (オーストラリア) 黒鶯 (日本)
 金羅 (マライ半島) 黒鶯 (日本)
 紅羅 (臺灣) 胡鶯 (オーストラリア)
 小紋 (オーストラリア) 小鶯 (日本)
 紅葉 (アフリカ) 小鶯 (インド)
 紅鳥 (アフリカ) 小鶯 (インド)
 駒鳥 (日本) 想鳥 (支那)
 島青 (滿洲) 四十雀 (日本)

河馬 (アフリカ) 牙 (滿洲)
 羌鹿 (臺灣) 麒麟 (アフリカ)
 水牛 (臺灣) 水鹿 (日本)
 獐 (朝鮮) 雙峯駱駝 (滿洲)
 緬羊 (オーストラリア) 羊 (朝鮮)
 牛 (東アフリカ) 馬 (印度)
 大羚羊 (東アフリカ) 鹿 (南アメリカ)
 あふりか水牛 (南アフリカ)

○奇蹄類
 朝鮮馬 (朝鮮)
 ○貧齒類
 蝟 (支那)
 鐵鼠 (ブラジル)
 ○長鼻類
 印度象 (泰國)
 ○有袋類
 赤かんがるー (オーストラリア)
 大かんがるー (オーストラリア)

天	黑	河	入	瑞	山	桃	椛	眞	星	華	文	日	嘴	虎	茶	大	鳥
人	原	内	瑞	瑞	色	鳥	鳥	鳥	星	文	日	嘴	太	金	官	鳥	駒
鳥	鶴	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀	雀
(アフリカ)	(臺灣)	(日本)	(日本)	(日本)	(印度)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)	(日本)
い	か	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る	る
(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本

七	大	猩	小	黃	片	青	小	赤	啄	大	佛	佛	白	白	帝	白
草	白	々	巴	巴	福	眼	啄	啄	木	五	法	法	頭	頭	雀	鴉
鴉	鴉	鴉	巴	巴	面	巴	木	木	鳥	色	僧	僧	め	め	(南)	(愛)
(オース)	(マラ)	(マラ)	(オース)	(オース)	(オース)	(ババ)	(日)	(日)	(日)	(印)	(日)	(日)	(日)	(日)	ア)	知)
トラ)	ツカ)	ツカ)	トラ)	トラ)	トラ)	ア)	本)	本)	本)	度)	本)	本)	本)	本)	ア)	縣)
ラ)	カ)	カ)	ラ)	ラ)	ラ)	島)	本)	本)	本)	度)	本)	本)	本)	本)	ア)	縣)
ラ)	カ)	カ)	ラ)	ラ)	ラ)	島)	本)	本)	本)	度)	本)	本)	本)	本)	ア)	縣)
ラ)	カ)	カ)	ラ)	ラ)	ラ)	島)	本)	本)	本)	度)	本)	本)	本)	本)	ア)	縣)

朝	胸	隼	鷲	兒	狗	鷲	鷲	木	綠	梟	青	青	大	大	大	大	大
鮮	白	白	白	白	白	白	白	木	葉	葉	丹	丹	丹	丹	丹	丹	丹
大	鷲	鷲	鷲	鷲	鷲	鷲	鷲	木	葉	葉	丹	丹	丹	丹	丹	丹	丹
(朝)	(南)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(朝)	(日)	(日)	(アフリカ)	(アフリカ)	(オース)	(オース)	(オース)	(オース)	(オース)
鮮	洋	本	本	本	本	本	本	鮮	本	本	本	本	本	本	本	本	本
長	冠	尾	尾	尾	尾	尾	尾	梟	大	大	大	大	大	大	大	大	大
元	白	白	白	白	白	白	白	梟	木	木	木	木	木	木	木	木	木
坊	鷲	鷲	鷲	鷲	鷲	鷲	鷲	梟	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉	葉
(日)	(琉)	(日)	(滿)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)	(日)
本	球	本	洲	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本

覺	麥	鷲	白	瘤	小	輕	大	鷲	亞	赤	雁	紫	中	中	黑	蒼
覺	麥	鷲	顏	瘤	小	輕	大	鷲	米	筑	雁	紫	中	中	面	蒼
(日)	(日)	(日)	(南)	(日)	(日)	(日)	(南)	(日)	利	紫	雁	紫	中	中	漫	蒼
本)	本)	本)	ア)	本)	本)	本)	洋)	本)	加	紫	雁	紫	中	中	畫	蒼
本)	本)	本)	メ)	本)	本)	本)	本)	本)	鴉	鴉	雁	雁	雁	雁	畫	蒼
本)	本)	本)	リ)	本)	本)	本)	本)	本)	鴉	鴉	雁	雁	雁	雁	畫	蒼
本)	本)	本)	カ)	本)	本)	本)	本)	本)	鴉	鴉	雁	雁	雁	雁	畫	蒼
本)	本)	本)	リ)	本)	本)	本)	本)	本)	鴉	鴉	雁	雁	雁	雁	畫	蒼
本)	本)	本)	カ)	本)	本)	本)	本)	本)	鴉	鴉	雁	雁	雁	雁	畫	蒼

葎 雁 (日本) 尾長 (日本)
 鼠 雁 (ヨーロッパ) 顔白雁 (ヨーロッパ)
 ○全蹠類 鶉 (日本) 桃色伽藍鳥 (ヨーロッパ)
 ○人鳥類 じゃっかすべんぎん (アフリカ南端)
 ○鳩類 鳩 (日本) 金養鳩 (ニコバル島)
 白子鳩 (日本) 傳書鳩 (ベルギー)
 緋胸鳩 (フィリピン) 紅鳩 (臺灣)
 琉球綠鳩 (沖繩) 薄雪鳩 (オーストラリア)
 ○鷗類 貓鷗 (日本) 鷗 (日本)
 百合鷗 (日本)
 ○鶴類 鶴 (西比利亞) 大鶴 (緬甸)
 姉羽類 鶴 (日本) 黑鶴 (滿洲)
 大鶴 (日本) 丹頂鶴 (滿洲)
 青鶴 (印度) 頂鶴 (滿洲)
 眞那 鶴 (朝鮮) 鍋頂鶴 (朝鮮)

冠 鶴 (東アフリカ) 鶉 (日本)
 野 雁 (滿洲) 鶉 (日本)
 ○鷄類 印度孔雀 (印度) 鶉 (日本)
 高麗雉 (朝鮮) 雉 (日本)
 金銀雉 (日本) 小銀雉 (支那)
 腰赤雉 (ボルネオ) 緞面鳥 (支那)
 山鷄 (臺灣) 七面鳥 (日本)
 島鷄 (シヤム) 白雉 (英吉利斯)
 青鷄 (ボルネオ) 長尾鷄 (日本)
 竹鷄 (臺灣) 家鷄 (日本)
 珠鷄 (支那) 深山竹鷄 (臺灣)
 眞孔雀 (支那) 深山竹鷄 (臺灣)
 白孔雀 (印度) 金面鳥 (支那)
 紫紺白鷄 (印度) 藍七面鳥 (スウェーデン)
 ○沙鷄類 鷄 (滿洲)
 ○走鳥類 鷄 (オーストラリア) 駝鳥 (アフリカ)

喰火鳥 (セラム島)

○爬虫類

水龜 (日本) 草龜 (日本)
 背折龜 (アフリカ)

○鰐魚類

北米鰐 (北アメリカ) 入江鰐 (マライ群島)
 沼地鰐 (印度) 支那鰐 (支那)
 馬來がびある (ボルネオ)

○蛇類

錦蛇 (マライ半島) 白蛇 (日本)

○蜥蜴類

青舌蜥蜴 (オーストラリア) 大蜥蜴 (ボルネオ)
 松毬蜥蜴 (オーストラリア)

○兩棲類

○有尾類 り (日本) 大山椒魚 (日本)
 ○無尾類 蛙 (日本)

收容動物數一覽表

哺乳類	六四種	一九三點
鳥類	一九〇種	六一五點
爬虫類	九種	二五點
魚類	二八種	三〇九點
合計	二九一種	一一四二點

六、動物標本室

正門右手に標本室の棟がある。これは園内で斃死した動物の中特に珍しいものを、剥製として保存陳列したものである。尚時々開催する展覧會等にも、此の建物を使用する機会が多い。今主要な標本を挙げると次の通りである。

○哺乳類

狸々 黒狸々 手長猿 まんと狒々 かくま狒々 獅子尾猿 絹毛猿 羊毛猿 蜘蛛猿 狐猿 班狐猿 獅子 黒豹
 虎 黄金猫 こあいち まんぐす はいえな 灰色狐 すなどり猫 熊 日本熊 北極熊 黄 貂 すかんく 水獺
 海鱧 海豹 おつとせい 縞馬 印度羚羊 麒麟 南米鹿 一體双頭の牛 びくにあ あるばか 豪猪 蝟 奄美
 の黒兎 ニバタゴ 野兎 鼯鼠 穿山甲 かんがるう

○爬虫類

大蜥蜴 白蛇 象 龜 赤海龜 甲高龜 鼈甲龜 鬘蜥蜴 松笠蜥蜴 北米鱉 入江鱉

○鳥類

冠鶴 紅鶴 丹頂鶴 白鶴 極樂鳥 青帽子鸚鵡 七草鸚鵡 五色鸚鵡 大白鸚鵡 紅綬鶏 篋鷲 るりかけす
 青鸞 傳書鳩 犀鳥 黄胸大嘴 喰火鳥 王秃鷹 狗鷲 隼 梟 鷲鶯 頬白雁 印度雁 野雁 びろーどきんく
 ろ 鈴鴨

七、観覧人員及観覧料

最近十年間に於ける観覧者並に観覧料収入を表示すれば次の通りであつて、昭和十一年迄は鶴舞公園時代であり十二年度以降は東山公園に移轉後である。以て移轉後の観覧者の激増を知る事が出来る。

年 度	有 料 観 覧 人 員	観 覧 料 收 入
昭 和 七 年 度	四一九、一六〇人	三三、〇四三 <small>円</small> 四九
同 八 年 度	五四一、二一八	四二、六一七 <small>円</small> 二八
同 九 年 度	六四四、一三七	五一、三五六 <small>円</small> 七五
同 十 年 度	六五二、九七一	五一、三六八 <small>円</small> 一六
同 十 一 年 度	六三三、〇五九	五二、八一二 <small>円</small> 九五
同 十 二 年 度	一、五四一、九四二	一八五、五一三 <small>円</small> 九五
同 十 三 年 度	一、一九六、二七七	一三八、八五八 <small>円</small> 二一
同 十 四 年 度	一、二四〇、〇二二	一四六、一八九 <small>円</small> 〇四
同 十 五 年 度	一、二五五、五五六	一五五、九二五 <small>円</small> 〇八
同 十 六 年 度	一、二二二、六三三	一五三、三五〇 <small>円</small> 〇四

八、經 費

昭和七年度以降の經費を年度別に示すと次の通りである。

年 度	經 常 部	臨 時 部	合 計
昭和七年度	二二、三四五、〇四		二二、三四五、〇四
同 八年度	三三、六二八、五二		三三、六二八、五二
同 九年度	四四、一三二、五七		四四、一三二、五七
同 十年度	四一、三三五、三〇		四一、三三五、三〇
同 十一年度	四一、八一四、八八	二、九四八、九五	四四、七六三、八三
同 十二年度	九六、九一五、四三	九七、二二九、九三	一九四、一四五、三六
同 十三年度	八二、九〇〇、〇〇	二〇、七七七、八四	一〇三、六七七、八四
同 十四年度	九二、六五〇、二四	一一、九〇三、九四	一〇四、五五四、一八
同 十五年度	一〇七、六八一、五九	二、〇五四、四六	一〇九、七三六、〇五
同 十六年度	一〇九、〇三二、九六	四、一四三、四三	一一三、一七六、三九
同 十七年度	一二三、四二八、〇〇	九〇〇、〇〇	一二四、三二八、〇〇

九、特別參觀者芳名錄

(略敬稱)

昭 和 十 二 年	職 名	氏 名	所 屬
三月廿五日	元陸軍大將	荒木貞夫	同 監事 工學博士
同 同	陸軍大將	中井猛之進	同 同
四月一日	東京帝國大學教授	丁鑑修	同 同
同 同	滿洲國實業部大臣	山崎定義	同 同
九日	富山市市長	牛塚虎太郎	同 同
十一日	前東京市長	永田秀次郎	同 同
廿七日	貴族院議員	郷誠之助	同 同
廿八日	同 男爵	串田萬藏	同 同
五月四日	奉天市長	王慶璋	同 同
同 同	貴族院議長	鈴木幸作	同 同
四日	陸軍大學校長候補	前田利治	同 同
八日	元愛知縣知事	三邊長夫	同 同
同日	福岡市長	久世庸治	同 同
十日	貴族院議員	水野鍊太郎	同 同
十一日	子爵	東園榮子	同 同
同日	港灣協會副會長	松波仁一郎	同 同
同日	港灣協會理事	三輪工學博士	同 同
三月廿五日	元陸軍大將	荒木貞夫	同 同
同 同	陸軍大將	中井猛之進	同 同
四月十五日	公 務 大 臣	廣 德 市 長	同 同
同 同	外 務 大 臣	松 井 田 川	同 同
同 同	陸 軍 大 將	宮 澤 田 弘	同 同
同 同	貴 族 院 議 員	大 澤 田 光	同 同
同 同	高 岡 市 議 長	佐 竹 義 五	同 同
同 同	候 爵	鍋 島 直 義	同 同
同 同	候 爵	田 口 易 映	同 同
同 同	和 歌 山 市 長	西 田 之 巖	同 同
同 同	印 度 カ ル カ ッ タ 會 頭	豐 田 雅 孝	同 同
同 同	商 工 省 博 覽 會 長	雪 澤 千 代	同 同
同 同	都 市 計 畫 課 長	丹 羽 鼎 治	同 同
同 同	東 京 帝 國 大 學 教 授	井 上 三 治	同 同
同 同	東 京 市 公 園 課 長	古 賀 忠 治	同 同
同 同	東 京 市 上 野 動 物 園 長	井 上 三 治	同 同
同 同	大 阪 市 公 園 課 長	原 兵 市	同 同

昭和十四年

七月	鐵道省 副検査官 松田醇二
八月	大阪市生業部 部長 伊藤俊雄
十五日	内務省 計畫局長 龜山孝一
十七日	滿洲國聯盟 官公吏 一行十七名
八月十一日	海軍少年航空兵師範 大崎安兒
十三日	金澤市 市長 澤野外茂次
同日	獨逸オリンピック 技師 長
廿一日	コロンビヤ代理公使 レオポルド・ポルダ・ロルダン
廿二日	東京市紀元二千六百年 記念事業部長 谷川昇
卅日	文部省 圖書監修官 加藤將之
廿二日	東京 帝大教授 服部健三
廿三日	元駐獨大使 本田熊太郎
同日	保險院 簡易局長 藤川靖
同日	滿洲 賓江省 長 商工視察團 二十一名
廿六日	女子學習院長 長屋順馬
同日	北京特別市教育 視察團 指導官 島崎靜
卅日	訪日秘書節 經濟 文化使 節團 一行二十五名
十月四日	獨逸ヒットラーユー ーゲント 一行二十五名
七日	蒙古聯盟自治政府 日本行政視察團 長 一行二十五名

十三日	滿洲國 國務總務廳 大槻五郎
廿二日	滿洲國 新京實業團 團員一行二十名
同日	廣島市 助役 中邑元
廿五日	滿洲國 牡丹江省長 渡邊宗太郎
廿七日	奉天市長 庶務課長 帶全男
廿九日	東京市日本青年團 理事 香坂昌康
十一月一日	長崎縣 知事 川西實藏
同日	蒙古 訪日視察團 德王副官以下 十二名
同日	滿洲國 產業部大臣 呂榮
同日	滿洲國 經濟部 部長 羅振邦
同日	商工省 商務局長 新倉利廣
同日	伯 日本鳥の會 主宰 清棲幸保
同日	文部省 社會教育局 長 清水芳一
同日	滿洲國 司法部大臣 張煥
同日	九州帝國大學教授 竹岡勝也
廿四日	大阪市 助役 中井光次

十二月一日	滿洲國 自報團 團員 二十七名
同日	內閣紀元二千六百年 祝典事務局長 歌田千勝
九日	滿洲國 官廳長 團員一行十五名
廿三日	海軍航空兵徵募官 一行十五名
一月七日	海軍 中佐 岡田有作
十八日	滿洲國 臨時國都 建設局 管理科 岡安辰雄
廿一日	六大都市市會參事會 會員 二十五名
廿二日	海軍 徵募官 松良大佐
廿三日	滿洲國 滿洲觀光聯盟 團員一行十四名
同日	日本 規程 團員 田中廣太郎
二月四日	愛知縣 知事 會員一行四十六名
同日	四大都市參事會 秋本敏男
十七日	財團法人日本高等 獸醫學校 理事長 署員一行十六名
廿一日	支那 臨時政府 建設 總務署 署員一行十六名
三月十三日	滿洲國 上海維新學院 大藏省 營繕管財局長 谷村少佐始メ九十七名
十七日	總務 課長 日比野襄
十八日	名古屋 地方裁判所 金澤 檢事正
同日	中部 〇〇部隊 山本進少尉始メ〇〇名

廿二日	滿洲國 吉林省永吉縣 臨時第二陸軍病院附 屬 醫大 團員 公署員一行 五名
同日	臨時第二陸軍病院 醫大 團員 服部繁一以下 〇〇名
卅一日	關東州 土木部 課長 塚本精太郎
同日	青島 訪日視察團 團員 一行二十名
同日	滿洲國 黑河省經濟 視察團 理事 福田政晴始メ二十五名
同日	蒙古 訪日視察團 團員 一行二十五名
五日	陸軍 大將 井上幾太郎
十一日	北支訪日經濟視察團 團員 一行四十名
十二日	天津 市 團員 一行二十名
同日	滿洲 三江省 訪日 視察團 團員 一行二十名
十四日	滿洲 重工業副總裁 馮始メ三名
同日	滿洲 哈爾濱商工訪日 視察團 團員 一行十八名
十八日	北京市 小學校 校長 傳維熙始メ十二名
廿五日	蒙古 自治政府 團員 一行三十二名
同日	滿洲國 龍江省 團員 一行二十四名
廿七日	奉天 臨時商業教師 職員 一行十九名
三月一日	フイリピン 大學 教授 一行二名
同日	天津 教育視察團 團員 一行三十名
四日	滿洲國 視察團 團員 一行二十五名

同	八日	河北交通株式會社 日本觀光團	團員一行十六名
同	八日	滿洲國濱江省青崗縣 公署實業股長技士	久我尙廉
同	十八日	北京訪日視察團	團員一行十八名
同	十九日	北京新民會 滿洲國視察團	團員一行十三名
同	廿日	滿洲國中央銀行 副總長	團員一行三十二名
同	廿日	維新政府訪日 視察團	潮會一行二十八名
同	廿六日	滿洲國奉天省海上縣 公署	街村又代
同	廿八日	滿洲國安東省 商工規程視察團	沈文華始メ三十六名
同	卅一日	滿洲國視察團	末次信正
同	六月一日	滿洲國政府司法官 訪日視察團	團員一行十五名
同	二日	滿洲國政府司法官 訪日視察團	團員一行十六名
同	七日	滿洲國陸軍病院分院 訪日視察團	傷病兵〇〇名
同	八日	滿洲國錦州省 地方視察團	行政視察團一行卅二名
同	十五日	廣東訪日視察團	堀義臣始メ二十四名
同	十六日	名古屋第二陸軍病院	高田陸軍歩兵大佐
同	廿六日	別府市市會議員	傷病兵〇〇名
同	廿六日	別府市市會議員	職員一行十二名

同	廿三日	滿洲國社會事業 研究所	一行十四名
同	廿四日	滿洲國社會事業 研究所	一行六名
同	廿六日	京城市市政記者	一行七名
同	廿八日	滿洲國中將 蘭領印度女教員	一行八名
同	七月三日	海軍中將	一行九名
同	八日	橫濱市市會議員	一行九名
同	廿一日	臺北帝國大學 行政視察團	一行二十名
同	廿七日	藤原部隊 歩兵少尉	竹內教授
同	廿七日	名古屋赤十字病院 貴族院議員	林義一始メ〇〇名
同	八月十八日	陸軍中將	傷病兵〇〇名
同	廿七日	高松市商工會議所 會長	坂西利八郎
同	卅一日	東京市市會議員	細溪宗次郎
同	卅一日	大阪市助役	藤澤大佐
同	九月三日	名古屋稅關長	一行十六名
同	廿四日	小倉市市會議員	川又公平
同	十月一日	京城市市會議員	山崎皆造始メ十名
同	二日	滿洲國三江市湯原縣 財務課長	一行十八名
同	三日	滿洲國內地視察團	劉自儀始メ二十三名
同	四日	滿洲國內地視察團	團員二十六名

同	九月八日	仁川府府會議員 名古屋陸軍病院	村田孚始メ九名
同	十八日	新愛知新聞社長	安田稻三始メ〇〇名
同	十九日	滿洲國地方官吏 訪日視察團	大島宇吉
同	廿五日	陸軍省古屋工廠 陸軍省中將	木村弘人
同	廿九日	滿洲國三江市警務處 教養督視察課長	小岩井諫衛始メ卅八名
同	十一月二日	海軍少將	真木平一郎
同	三日	滿洲國協和會 訪日視察團	井上四郎
同	七日	京城市市會議員	一行十六名
同	八日	神戶市市會議員	一行十一名
同	八日	滿洲國通化省 地方職員訪日視察團	原田熊雄
同	十一日	滿洲國維新學院 滿洲國吉林省地方 職員訪日視察團	訪日視察團員八十名
同	十五日	候	團員一行六十八名
同	十七日	六大都市市長會議	蜂須賀正氏夫妻
同	十八日	公	會員一行三十名
同	十九日	候	池田宣輔
同	十九日	新鴻市長	村松武美
同	十九日	北京公署	職員一行五名

同	一月九日	西ノ宮市長	松尾園治
同	十一月十一日	仁川府府會議員	一行十四名
同	十八日	滿洲國治安部 警務視察團	溫廣口始メ十三名
同	廿六日	購買課長中佐	ロイベルト、オルモス
同	二月十八日	滿洲國東亞操艦者 懇談會	笠神志都延始メ六十五名
同	廿二日	朝鮮羅津府會議員	李鐘沫外七名
同	三月十八日	宇津宮市土木課長	長谷川善次郎始メ六名
同	卅日	朝鮮協和會	會員一行二十一名
同	卅日	中華民國國訪日 視察團	翁翫外十二名
同	四月六日	滿洲國奉天省 海城縣公署	職員一行二十二名
同	十二月四日	滿洲國法政大學 最高法院長	林榮始メ五名
同	九日	滿洲國新東京市 訪日視察團	教授一行四名
同	廿五日	回々教日本視察團 エーメン國宗教大臣	アール、キブシ
同	廿四日	公	一行五十一名
同	廿三日	滿洲國中堅官吏 指導者 日本研究團	伊藤博精
同	廿三日	北支、南支 日本視察團	公務局長一行十名

昭和十五年

五月三日	新東京商工公會	視察員	三十二名
同	滿洲國龍江省	團員一行	二十四名
同	河南省日本視察團	團員一行	二十五名
四日	北京覺生女子中等學校	團員一行	三十四名
八日	中華民國山東省長	唐柳杜	始メ十名
十一日	仙臺市水道部事業部	幸原部長	始メ六名
十三日	奉天省視察團	團員一行	三十六名
同	關東州視察團	團員一行	十五名
十四日	鐵道省國際觀光局	局員一行	五名
十五日	滿洲國農安縣	張西橫始メ	二十三名
十六日	滿洲國農安縣	團員一行	五十一名
十八日	日本視察團	團員一行	五十一名

六月三日	滿洲國北安省農林部	團員一行	二十六名
同	吉林省伊通縣	團員一行	二十七名
同	豐橋市	團員一行	二十九名
同	元獨逸大使	團員一行	四十二名
廿一日	スベイン經濟使節團	團員一行	七名
同	滿洲國日本行政	團員一行	二十六名
同	〇〇艦長海軍大佐	伊藤尉	太郎
七月一日	滿洲國開拓廳	團員一行	六十名
同	滿洲國開拓廳	團員一行	六十名
七日	滿洲國開拓廳	團員一行	六十名
十日	滿洲國開拓廳	團員一行	六十名
十一日	〇〇戰車隊	張壽司	始メ二十一名
十二日	五族共和促進會	張壽司	始メ二十一名
十六日	蒙古聯合自治政府	張壽司	始メ二十一名
廿五日	在米日本第二世	大野時郎	

五月三日	滿洲國東安省	團員一行	二十三名
同	陸軍中將	岩松義雄	
同	滿洲國吉林省	團員一行	一
同	豐原市	高橋彌太郎	
同	名古岸帝國大學	田村春吉	
同	農林省山林局技師	內田清之助	
同	農學博士	學生一行	二十六名
同	サンパウロ大學	團員一行	二十五名
同	滿洲國	團員一行	二十五名
同	新東京商工公會	視察員	三十二名
同	滿洲國龍江省	團員一行	二十四名
同	河南省日本視察團	團員一行	二十五名
同	北京覺生女子中等學校	團員一行	三十四名
同	中華民國山東省長	唐柳杜	始メ十名
同	仙臺市水道部事業部	幸原部長	始メ六名
同	奉天省視察團	團員一行	三十六名
同	關東州視察團	團員一行	十五名
同	鐵道省國際觀光局	局員一行	五名
同	滿洲國農安縣	張西橫始メ	二十三名
同	滿洲國農安縣	團員一行	五十一名
同	日本視察團	團員一行	五十一名

十一月一日	大亞細亞協會	村川堅固	
同	廣東省	彭東原	始メ六十六名
同	廣西	團員一行	二十八名
同	訪日視察團	柴田虎一	始メ九名
同	天津市政府	矢野勝正	始メ二十名
同	水利局河川科	傳式說	始メ七名
同	中華民國國民政府	團員一行	十八名
同	蘇北訪日教育視察團	粕谷	事務官
同	新京特別市公署	團員一行	三十八名
同	公園科長、國都建設局		
同	滿洲國錦州省地方職	團員一行	三十八名
同	昭和十六年		
一月八日	山東省職員	一行	二十八名
同	京城府職員	一行	十九名
同	愛知縣總務部長	山田武雄	
同	大審院院長	長島毅	
同	華北使節團	陳正始	始メ十五名
同	華北使節團	女生班一行	十二名
同	華北使節團	大岡保三	
同	文部省圖書局長	松岡源之真	
同	大政翼贊會總務部長	竹下勇	
同	海軍大將		

三月一日	智利國訪日視察團	マナウントデンテルモ ゼール女史一行七名
同日	北京特別市工務局長 第一科部長	王作新始メ 五名
同日	北京特別市工務局長 第二科部長	寶田通 元名
八日	京城商工聯合會幹事 長	栗元正隆始メ 十九名
九日	慶應義塾大學教授 醫學博士	大森憲 大
十六日	岐阜縣知事	數藤鐵 臣
同日	名古屋稅關長	岸本俊 格
十七日	內務省都市計畫課長	重成 格
四月十日	北京經濟使節團	團員一行三十名
十七日	アマガニスタン國訪 日經濟視察團	團員一行十二名
十七日	濟南市政府視察團	團員一行十一名
廿二日	滿洲國移民協會 滿洲國地方官吏	團員一行二十三名
廿三日	滿洲國地方官吏	團員一行二十三名
廿六日	日本行政視察團	團員一行二十三名
廿九日	廣東省政府衛生局長 第三課長	陳謙 英
卅日	滿洲國龍江省 視察團	團員一行二十名
五月四日	滿洲國新察團	團員一行二十四名
六日	滿洲國哈爾濱 視察團	團員一行二十名
七日	內蒙古王候子弟 視察團	團員一行六名
同日	新漫畫旅集團	橫山隆 一名

九日	北京特別市教育局 督學主任	徐建 動
十日	東安省訪日視察團	團員一行十名
十二日	京城府內地商業組合	調查員十名
十四日	大政翼贊會	高良富 子
十五日	安徽省政府教育會長	淺川勝 六
十八日	愛知縣知事	相川勝 六
十九日	滿洲國視察團	團員一行二十五名
廿六日	泰國日本視察團	團員一行十三名
六月三日	比律 律	生徒二十名
十九日	中華民國定海縣 訪日文化教育視察團	團員一行二十四名
七月四日	北京市小學校 訪日視察團	團員一行十一名
八月十二日	中華民國大使	籍藤始メ 十三名
十六日	滿洲國行政視察團	齋藤始メ 十三名
十八日	滿洲國哈爾濱白系露 人交際協會	會員一行
十月九日	企畫院海軍少將	小島謙太郎
十二日	元大藏大臣	池田成彬
十一月九日	善光寺大勸進	村雲尼公
同日	貴族院議長	光行次郎
十二日	滿支訪日經濟視察團	朴頂實始メ 十三名
廿二日	安城女子專門學校長	山崎延吉

一〇、開園及閉園時刻

月	開園	閉園
一、二月	(午前九時)	(午後四時)
三、四月	(午前八時三十分)	(午後五時)
五、六、七、八月	(午前八時)	(午後六時)
九、十月	(午前八時三十分)	(午後五時)
十一、十二月	(午前九時)	(午後四時)

廿七日 名古屋 商工會議所 高松 定一
 恩賜財團軍人授護會 長岡 壽吉
 事務理事 陸軍少將 柴田 彌一郎
 陸軍少將

觀覽料金
 大人 十二歲以上 金十五錢
 小 六歲以上 金五錢
 團體 大人 三十人以上 一人二付金十錢
 百人以上 同 金八錢
 小人 三十人以上 同 金三錢

436
6

昭和十八年四月二十五日印刷
昭和十八年五月一日發行

非賣品

名古屋市中種區田代町唐山二一五番地

編輯兼發行人 北王英一

名古屋市中區南吳服町二丁目二三番地

印刷所 高橋成弘社

名古屋市中區南吳服町二丁目二三番地

印刷者 高橋通平

(中愛三五)

名古屋市中種區田代町唐山二一五番地

發行所 名古屋市東山動物園

